

事業所における自己評価結果（公表）

【放課後等デイサービス】

公表：2022(R4)年 02月 16日

事業所名：スクラム

| | | チェック項目 | はい | どちらとも いえない | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標 |
|------------------|----|---|----|---------------|-----|---|--|
| 環境・ 体制整備 | 1 | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか | ○ | | | ・着替えや活動内容等により部屋を分け、仕切っている。 | |
| | 2 | 職員の配置数は適切であるか | ○ | | | ・必要時には他事業所から男性職員の応援をもらっている | ・男性職員の増員については法人における人事担当者を通じて依頼している。今後も他事業と連携しながら進めていきたい。 |
| | 3 | 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか | ○ | | | ・視覚や肢体不自由の障害児・者は利用していないが、職員室活動室の前にはスロープを設置している。 | |
| 業務改善 | 4 | 業務改善を進めるための、PDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか | ○ | | | ・中間・総括評価と年に2回の運営と実践面の評価及び職員・保護者の評価をもとにPDCAに活かしている。 | |
| | 5 | 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか | ○ | | | ・年度初めのオリエンテーション、年度末の説明会にて、結果をもとに改善に繋げた報告をしている。 | |
| | 6 | この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか | ○ | | | ・毎年、ホームページと事業所の月報に掲載している。 | |
| | 7 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか | ○ | | | ・毎年1月末に地域・福祉・教育に従事している方を招聘し、専門的知見に基づく率直な意見に耳を傾け、改善につなげている。 | |
| | 8 | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか | ○ | | | ・法人全体と事業所内の研修を1月おきに開催し、事業所内においても、定例のケース会議などを開催し、事例の中間報告（5月）・発表会（2月）を開催している。 | |
| 適切な 支援の 提供 | 9 | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか | ○ | | | ・スクラムプランによるチェックリストや将来に向けての計画など総合的な実態とニーズの把握に努めている。 | |
| | 10 | 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか | ○ | | | ・法人の専門職（臨床心理士）による発達相談の実施や各種チェックリストなどを活用している。 | |
| | 11 | 活動プログラムの立案をチームで行っているか | ○ | | | ・職朝や打ち合わせ時などに意見交換・内容検討を子どもの様子を出し合いながら行っている。月初め・週初めに活動予定を話し合っている。 | |
| | 12 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか | ○ | | | ・季節ごとや学校休業前など子どもの状態を考えながら、様々な活動を設定できるよう話し合いを設定している。 | |
| | 13 | 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか | ○ | | | ・上記と同様だが、個別の支援計画に則り、本事業所のできることを考慮し取り組んでいる。 | ・長期休暇では1日を通しての活動が続き、利用児童生徒や職員の疲労度が高い傾向にあるため、多種多様な活動を詰め込みすぎないように配慮し、特にねらいたいことなどを抽出できるよう事前の会議を深める。 |
| | 14 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか | ○ | | | ・個の時間・集団の時間、メリハリをつけることを意識している。 | ・利用児童生徒一人ひとりの個別・集団での課題を明確に示し、職員で共有することを優先し、活動設定にかかわる会議などの場において、出し合い活動内容や活動環境等を設定していく。 |
| | 15 | 支援開始前に職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか | ○ | | | ・日々活動前には必ず職員による打合せができており、活動後は簡単に振り返り、翌日の職員朝会等で共有・検討を繰り返している。 | ・振り返りの時間をより大事にして、個々の課題検討や支援内容・方法の吟味、次の活動内容等を考慮していく。 |
| | 16 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか | ○ | | | | |
| | 17 | 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか | ○ | | | ・個別記録簿に支援計画が常に確認できることは良かったと思う。 | ・検証・改善の振り返りの時間を大切にしていきたい。より具体的な言葉にできるような努力をしたい。 |

| | | チェック項目 | はい | どちらとも いえない | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標 |
|--------------|----|--|----|---------------|-----|--|--|
| | 18 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか | ○ | | | ・定期的に実施できており、常に見直しを進めている。 | |
| | 19 | ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか | ○ | | | ・毎回作成する「活動計画案」の書式内に掲載するなどして、意識化を図っている。 | |
| 関係機関や保護者との連携 | 20 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか | ○ | | | ・児発管もしくは対象児童生徒の担当者等の参加としている。 | |
| | 21 | 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか | ○ | | | ・電話やお迎え時の情報交換や連絡会・外部評価委員会等での情報・意見交換等を実施している。 | ・子ども同士のトラブル発生時に、適切に行われなかった事例が1件あったが、その後学校関係者との情報交換ができた。今後はより積極的に行っていきたい。 |
| | 22 | 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか | | ○ | | ・医療的ケアが必要な子どもは利用していない。 | |
| | 23 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか | ○ | | | | |
| | 24 | 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか | ○ | | | | |
| | 25 | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか | ○ | | | | ・機会をとらえて、積極的に連携を図ってきたい。 |
| | 26 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか | | | ○ | ・公園で一緒になった際は、交流しやすい雰囲気作りができるよう心掛けている。 | ・コロナ禍ということもあり、交流や活動は控えているが、状況が変われば積極的に計画していく予定。 |
| | 27 | （地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか | ○ | | | | |
| | 28 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか | ○ | | | ・お迎えの際や保護者会・学習会等々を活用している。 | ・より発達や課題・ニーズ等を捉えた理解につながるよう学び努力したい。 |
| | 29 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか | ○ | | | ・保護者会や月報で継続実施中である。 | |
| 保護者への説明責任等 | 30 | 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか | ○ | | | ・毎年、必ず保護者オリエンテーションを開催し、参加できない保護者等には資料の配布やいつでも各種説明や相談を受け付けている。 | |
| | 31 | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか | ○ | | | ・定例の事例検討会や研修等を活用し、資質の向上を図り、助言や支援に活かしている。 | ・今後も引き続き適切に必要な助言等が行えるよう研修を深めていきたい。 |
| | 32 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか | ○ | | | ・連携の重要性や意味について再認識している。コロナ禍で回数としては少ないが、保護者の相談から集う機会を設けたり、語り学び合う機会をもてたことは良かった。 | |
| | 33 | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか | | ○ | | ・苦情受付・解決責任者を置き対応している。多くはその機能が発揮できなかったが、適切に対応できなかった事案もあった。 | ・今後も真摯に対応し、再発生とまらないように具体的な手立てを講じる。・苦情や相談の共有は行っているが、事例ごとの対応の振り返りを行いながらより適切な対応ができるよう努力したい。 |
| | 34 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか | ○ | | | ・毎月保護者向けとして発行している。 | |
| | 35 | 個人情報に十分注意しているか | ○ | | | ・名前や画像など個人情報の取り扱いについて、保護者からそれぞれの範囲等も含めて、承諾書ももらっている。 | |
| | 36 | 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか | ○ | | | ・実物・半具体物・記号等と抽象度を考慮して、示したり、説明したりしている。 | |

| | チェック項目 | どちらとも いえなし | | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標 |
|-------------------------------|---|---------------|--|---|---|
| | | はい | いいえ | | |
| 37 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか | | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民を招待する行事計画があるか、コロナ禍で実施できていない。 ・コロナ禍のため行事等見合わせる事が重なった。 ・コロナ禍で行事に招待する等難しい。 ・コロナ禍で困難な状況であるが、民生委員の方の清掃協力があり、地域の方と交流する機会となった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナウィルの収束・終息など深刻な状況から脱することができれば、ぜひ、地域住民を招待した行事等の復活をしたい。 |
| 非常時等の対応 | 38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか | ○ | | <ul style="list-style-type: none"> ・各マニュアルは策定し、職員・保護者に周知済みである。現在、コロナウィルス、自然災害のBCPを作成し、周知へと向かっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各種危機管理マニュアルやBCP(コロナウィルス、自然災害)も完成したので、毎年の改定とよりよく修正を繰り返していく。また、地域の警察や消防、近くの会社や福祉施設等との連携を図っていきたい。 |
| | 39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか | ○ | | <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な訓練等の実施や危機管理マニュアル・BCPの内容検討などを活かしている。 | |
| | 40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか | ○ | | <ul style="list-style-type: none"> ・法人研修会での報告などを通じて職員全体へ研修成果の共有化を図っている。 | |
| | 41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか | ○ | | <ul style="list-style-type: none"> ・同意書はもらっているが、支援計画への記載はない状況である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援計画への記載について協議し、職員全体で確認し整備していきたい。 |
| | 42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされているか | ○ | | <ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー、発作、服薬等について利用児童生徒一人ひとりの調査結果を一覧にして確認している。 | |
| 43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか | ○ | | <ul style="list-style-type: none"> ・毎週定例会として、ヒヤリハット事例について話し合いを継続している。 | | |

○ この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

○ 「はい」、「いいえ」の欄は、数を記入するのではなく、職員による自己評価結果を踏まえ、職員全員で討議した結果について回答すること。（該当する方に○を記入）